

# 人を造られた神さま

## 創世記1:26~28



1:26 そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。

1:27 神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

1:28 神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」

## なにゆえ神は 天と地を創造されたのか

天と地の創造すべては、神が人との永遠のかかわりをもつための舞台設定と言える。

神は人を他の被造物とは異なる特別な存在「創造の冠」として神と親しく交わりを持つために創造の最後に造られた。神を礼拝することができる地上で唯一の被造物である。

## 不老不死・完璧に創造されたいのち

人類は神のかたちを頂いて、特別な存在として創造された。聖書から人を語る時、靈的側面と精神的側面であることが多く、肉体を思い浮かべることは少ないのではない。しかし、聖書は靈・魂と肉体を切り離してはいない。

それは、不老不死・健康な体を頂いたのである。それがどんなに素晴らしいものであるか、今生きている私たちには、はるか理解の届かない完璧なものであった。

その後、神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなった。(創世記 2:7)

## 神のかたちに似せて造られた人間

- (1) 人間が神の持っている理想的な形に似せて造られたこと
- (2) 地と地の被造物の支配
- (3) 人間の、創造者との交わりをもつ理性と能力
- (4) 人間の知・情・意の性格
- (5) 人間の聖さ、義、道徳性
- (6) 人間の体、魂、靈の三位一体的存在

## 人に自由意志が与えられた

人はロボットのようにプログラムされ自動的に行動するのでなく、自らの意志によって行動する自由意志が与えられた。

神は人が自らの意志によって、神を愛し従うことを望まれた。自由意志が自由意志として成り立つためには、他の選択肢も必要であり、神に従わない魅力的な選択肢も必要であった。

そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。

(創世記 3:6)

# 人間の初めの状態

## ① 知識の状態

神は、アダムに、あらゆる鳥獣、生命をもつすべてのものに名前を与える仕事を与えられた。神の被造物全体に対する統治を与えられたからである。（創世記1:28, 2:19-20）

これは広大な知識を必要とする。名前は、その所有者が誰であるかがわかるだけでなく、性格や運命をも啓示したアダムは、エデン在住の科学者であったと言える。

## ② 道徳的状态

聖さと義が神の基本的属性の一部であるので、神の似姿に造られたアダムは、聖く義しい性格を分有していたにちがいない。神が創造を完了した時、それは完全であった。

「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった…」

（創世記 1:31）

アダムは、聖潔の状態に創造された。そしてそれは、試みられたことがなかったので、確証されなかったが、悪のない状態であった。

## ③ 心理的状态

アダムは、いくつかの基本的本能を持つものとして創造された。それらの本能あるいは必要は、以下のようなものである。

- ①自己保全
- ②食物に対する欲求
- ③生殖あるいは性への欲求
- ④取得する必要
- ⑤支配欲

## ④ 社会的状態

人は社会的被造物であり、仲間をもつ者として造られた。神である主は仰せられた。

「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう」

（創世記 2:18）

園において、アダムは日々主との交わりを持った。エバが創造された時、アダムは自分自身と同種類の存在との絶えざる交流を得た。アダムが罪を犯した時、彼は神から離れた。それからアダムとエバの間に猪疑心が生じ、「あなたが私のそばに置かれたこの女が…」という非難となったのである（創世記 3:12）

## ⑤ 職業の状態

エデンの園は、怠惰な場所ではなかった。「神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた」

（創世記 2:15）

アダムは、動物学者であったばかりではなく、園芸家でもあった。エデンの美と生産性は、神の創造のみわざの結果ばかりではなかった。アダムは、園を維持し、世話をして、人間の手を加えた。生産的な働きがその実現のために、積極的な役割を果たした。仕事は、罪が登場して初めて「労苦」となったのだ。

## ⑥ 寿命の状態

アダムは不死の可能性をもって造られた。死は、善悪の知識の木から食べることについての神のいましめに従わない時にだけ、起こるはずであった。（創世記2:16-17, 3:3）

そしてアダムとエバが罪を犯した時、死が支配し始めた。それ以来、炎の剣を持つみ使いが、いのちの木を守った。（創世記3:24）

最後のアダムであるイエス・キリストは、死のとげを除去された。女のすえが蛇の頭を砕いたのである。神の御子を通して、パラダイスが回復された。